

---

# レイジー サム

山野つつじ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

レイジー サム

### 【Zコード】

Z5117Z

### 【作者名】

山野つづじ

### 【あらすじ】

カエルのサムはレイジー（怠け者）です。兄のビルも父親もとも困っています。一体どうしたら、サムは自立できるのでしょうか。

その後、サムというカエルがいました。

サムと同じ年頃のカエル達は自ら水に飛び込み、食べ物を取つていました。

なのに、なぜかサムは泳ぐこともせず、食べ物も自ら取ろうとしなかつたのです。

サムは言いました。

「だって水は冷たいだろ。それに、泳ぐと疲れるじゃないか」

「虫は素早く逃げちゃうだろ？ ビリせ上手くつかまえられないよ」

サムは、泳ぐことができないので敵から身を隠すこともできないし、誰かがエサを運ばないと食べることもできません。

どんな生き物でも、食べ物を自分で取ることができなかつたら、生きていけません。

仕方なく父親は、捕まえた虫をサムの口にぴょんぴょんと跳ねながら運ぶ毎日で、天敵である鳥が着たりすると、サムを大きな葉で隠し、自分が囮になつてぴょんぴょんと飛び跳ねなければなりません。

父親はかなり歳をとつてきていたので、そういうふた毎日にも寄る年のせいで体力的に限界がきていました。

父親がサムに虫を運ぶことが出来ない時は、サムの兄のビルという力エルに代わりを頼んだのです。

ビルは父親に頼まると、仕方なしに父親がするようにサムの話をしました。

父親もビルも本当はトムの怠惰を知っていたのですが、二人ともサムに無理強いすることは可哀相だと思つて続けるしかなかつたのです。

繁殖期になつてもそんな調子なので、サムのところには嫁にくる

カエルはいません。

みんなが嫁を見つけて子作りをしているのを見て、サムは言いました。

「なんで僕には嫁ができないんだろう……」「だけどそんなサムの疑問に、「自分のことさえ律する」ことができないものに、嫁なんかくるものか」といつ答えた父親もビルも知っていました。

ある日、ビルのガールフレンドのチャルシーが見るに見かねてビルに聞きました。

「どうして貴方の弟は自分で何もしないの?」

ビルはため息をつきながら言いました。

「俺だってこんなことしたくないんだよ。だけど俺がしないと父さんがしないとならないだろ? 父さん、もつ歳だからサムの世話を続けるつていうのは無理だし。俺も父さんにサムの世話を頼まれたら断ることできないんだよ。そうしないと父さんが無理をしてでもサムの世話をするから……」

チャルシーは、ビルの父親がサムの世話を続けるのは体力的に無理だとはわかつていました。

何かいい考えはないものかしら? とチャルシーなりに一日考えました。

翌日、ビルとチャルシーが考え込んでいると、サムが「腹が減ったよ、水の上をトンボが飛んでいるよ、あれ食べたい」と父親に向かつて叫びました。

チャルシーはビルの困りはてた顔と、父親のうまく動かない体を見て、さすがに腹が立ちました。

ぴょんぴょんとサムの近くまで大きくジャンプすると、「そんなに欲しけりや自分で泳いで取りにいきなさいよ!」と後ろ足でサムの背中を強く蹴り上げたのです。

サムは「うわあーっ」という雄たけびとともに水の中にポチャリ

としぶきを上げて落ちました。

父親はびっくり仰天、ビルも一体どうなることやらとせりあらじています。

ところが、水の中のサムはカエル泳ぎを始めたのです。顔を真っ赤にして不満一杯の表情を見せていましたが、ちゃんと上手に泳いでいました。

チエルシーは父親の前に行き、こう言いました。

「自分でエサを取ることもしない怠惰なカエル、繁殖期に嫁も作れない可哀相なカエルのサム、そんなカエルを作ったのはまぎれもない、父親の貴方よ！」

父親はチエルシーの言葉をうなだれて聞きました。

解つていたけれど、父親はサムを「まだ小さな子ども」のように世話をやき続けてしまったのです。

だからいつまでたつても、サムは一人前のカエルになれなかつたのです。

父親もビルも、サムが彼らを悩ませていたとずっと思つていたけれど、実は悩みの元凶を作つていたのは彼ら本人だということをすっかり忘れていたのでしょうか。

それ以降、父親もビルもサムの世話を一切しなくなりました。

サムは、お腹を空かせ死にたくなかつたので、しぶしぶ水の中で泳ぎ、自分でエサを取り始めたのでした。

(後書き)

文章のナレーターの統一の修正をしました。  
ん、ありがとうございます。

かきかたえんぴつさ

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5117z/>

---

レイジー サム

2011年12月17日12時56分発行